

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年6月15日(月) 5校時
児 童 5学年 17名 女13名 計30名
指導者 教諭 松高 茂子

付けたい読解力	A 段落相互の関係を読み取り、段落の要点をとらえる力。〈説明的な文章の解釈〉 B 文章の構成を考え、全体の要旨をとらえる力〈説明的な文章の解釈〉 C 筆者の主張に対して自分の考えを表現する力〈自分の考えの形成及び交流〉
---------	---

1 単元名 要旨をとらえよう (光村5年上)
教材名 サクラソウとトラマルハナバチ

2 単元について

(1) 単元の位置づけ

【低学年の説明文】 順序を追って、正確に読む。



【中学年の説明文】 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む。「ありの行列」・「すがたをかえる大豆」

- ・段落を知る。
 - ・接続語に目をつける。
 - ・一つの段落ごとにそれぞれ一つの事柄が書かれている。
- 『かむ』こと力」・「アップとルーズで伝える」
- ・段落と段落がつながって、さらに大きなまとまりを作る。
 - ・文章全体は、大きな意味のまとまりをいくつか組み立てたものである。

【高学年の説明文】 「サクラソウとトラマルハナバチ」「ニュース番組作りの現場から」

- ・筆者の主張は、文章の中に内包されていること。
- ・要旨をとらえ、自分の考えをもつ。

(2) 教材について

第5学年及び第6学年の説明的文章の読解力として、最も身に付けさせたいことは、「目的に応じ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」である。そのためには、段落の要点を押さえ、段落相互の関係を読み取り、それを生かして意味のまとまりをとらえること、筆者の意図を想定しながら文章構成を把握し、自分の考えをもつことが大切となる。

本教材は、「問題提起」「問題の解明」「まとめ」という説明文の典型的な文章構成をもっている。問題の解明1に基づいて問題の解明2が展開されているという文章構成、さらにそれぞれに小さな問いと小さなまとめが書かれていることから、論理的な思考力を育てるのに適した教材であるといえる。また植物と動物の共生関係について読み進め、要旨を正しくとらえた上で、さらに友達との意見交流を通して環境に対する自分の見方や考え方を広げ深めるのにふさわしい教材であると考えられる。

(3) 児童について

児童は、4年生までの説明文学習で、「順序を追って、正確に読む。」こと、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む。」ことを学習してきた。特に4年生では『かむ』こと力」・「アップとルーズで伝える」の学習を通して、段落と段落とのつながりや文章全体を大きなまとまりでとらえることなどを学習してきた。

NRTの結果を見ると「読むこと」の領域は全国平均並で他に比べて大きく落ちていることはないが、接続語やまとまりに注意して文章を読む力については十分に育っているとはいえない。また指示語の指し示している内容を理解できない誤りも多い。

5年生では、物語文「新しい友達」の単元で、登場人物の気持ちの心情の変化を読み取る学習を中心に進めてきた。書く活動については、登場人物の心情が表れている言動や表現にサイドラインを引いたり、書き込みなどを行ったりして活動してきた。しかし、書くスピードや読み取りには個人差があり、課題を解決するための手がかりとなる言葉を探したり、根拠をあげて発表したりする力は、ま

だ十分に育っているとはいえない。

(4) 指導について

本教材文を学習することで、児童に説明文の読み取りの方法、要旨のとらえ方を学ばせ、それに対する自分の考えをもち、表現する力をつけさせたい。そのために、全体の文章構成をとらえさせたり、各段落の要点をつかませ、段落相互のつながりを考えさせたりする活動を通して、筆者の主張である要旨をとらえさせる。最後に筆者の述べたことに対して自分なりの根拠を明らかにしながら文章に書くことで活用する力をつけさせたい。

本研究に関しては、単元全体や本時で身につけたい力を明らかにしながら授業を展開していく。また、初発の感想や教科書へのサイドライン、ワークシートへの書き込みなどの書く活動や自分の考えを述べる作文を書く活動を通して確かに読み取る力をつけていきたい。

3. 単元の目標

- (1) 植物と動物の共生関係と筆者の考えに関心をもって進んで読もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。 (読むこと イ)
- (3) 文章構成や文末表現などに着目して筆者の意見をとらえ、それに対する自分の考えをもつことができる。 (読むこと ウ)
- (4) 文章全体のおおまかな構成と部分の役割を理解することができる。 (言語事項)

4 単元の指導計画 (7時間)

- 〈一次 つかむ〉 1 ・初発の感想について話し合い、大まかな内容をとらえる。
・新出漢字の読み書きと難語句を調べる。
- 〈二次 見通す〉 2・3 ・文章全体の構成をつかみ、学習の見通しをもつ。
- 〈三次 深める〉 4 ・形式段落②～③を読み取り、サクラソウの受粉の仕組みを読み取る。
5 ・形式段落④～⑥を読み取り、サクラソウとトラマルハナバチとの関係を読み取る。(本時)
6 ・形式段落⑦～⑨を読み取り、トラマルハナバチがいなくなった秘密を読み取る。
- 〈四次 まとめる〉 7 ・形式段落⑩を読んで筆者の考えを読み取り、文章全体の要旨を読み取る。
- 〈五次 広げる〉 8 ・筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、文章に書く。
・感想を交流する。

5 本時の指導

- (1) 目 標 サクラソウとトラマルハナバチとの関係を読み取ることができる。

本時でつけたい読解力
A 形式段落ごとの要点をとらえる力。

(2) 展 開

	学習活動 (○主発問 ・学習内容)	指導上の留意点・(評価方法)
つかむ 5分	1 学習課題を確認し、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">サクラソウとトラマルハナバチがどのような関係なのかを読み取ろう。</div>	・前時までの学習を想起させる。 (観察)
見通す 5分	2 学習場面を音読する。(形式段落④⑤⑥) 3 問題解決の見通しをもつ。 ○形式段落④⑤⑥のそれぞれについて大切な文を見つけて、サクラソウとトラマルハナバチとの関係を短くまとめて書きましよう。	・サクラソウ、トラマルハナバチ、両者のどちらについて書いてある段落か確かめながら読ませる。 ・本時の学習場面が、意味段落二の後半部分にあたることを確かめる。 ・要点のまとめ方を確認する。 (観察)

ふかめる 30分	<p>3 形式段落④⑤⑥の要点をまとめる。 (一人学び)</p> <p>○それぞれの段落でサクラソウとトラマルハナバチの関係が書いてある文にサイドラインを引きましょう。</p> <p>○④⑤⑥段落の要点をまとめましょう。</p>	<p>・つまづいている児童がいるときには、それぞれの文の内容と役割を考えるようにさせる。 (教科書・ノート・観察)</p> <p>要点のまとめ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サクラソウとトラマルハナバチの関係をさがす。 ・大切な文を見つける。(サイドライン)。 ・短くまとめる。
	<p>4 各自まとめたことをもとに交流し合いまとめる。(学び合い)</p> <p>○④⑤⑥段落の要点を発表しましょう。</p>	<p>・ペア学習では、理由を付けながら話し合わせる。</p> <p>・各段落の内容にふれながら、要点を確かめていく。特に⑥段落については、②～⑤段落のまとめとしての位置づけにも触れる。</p> <p>(ノート、発言、観察)</p>
まとめる 5分	<p>5 まとめ音読をする。</p> <p>6 今日の学習を振り返る。</p> <p>7 次時の学習内容を知る。</p>	<p>・サクラソウとトラマルハナバチの関係を確かめながら読ませる。</p> <p>・本時の授業について自己評価させる。</p> <p>・意味段落三の⑦～⑨についてまとめていくことを確かめる。(観察)</p>

(3) 具体の評価規準

A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
形式段落の大切な文を見つけて、キーワードを入れて要点をまとめている。	形式段落の大切な文を見つけて要点をまとめている。	サクラソウとトラマルハナバチの関係がどこに書いてあるか見つけさせる

(4) 板書

<p>⑤ ④ ③ ② こうして よい 協力者</p>	<p>⑥ サクラソウとトラマルハナバチは、長い長い年月をかけて、おたがい都合のよい強い結びつきを築いてきた。</p> <p>2 1 1 1 くらし方 時期 からだのつくり 長い舌</p>	<p>⑤ トラマルハナバチは、サクラソウの工夫に合ったくらし方や体のつくりをしている。</p> <p>2 1 1 1 花の形 開花の時期 二つの工夫をしている。</p>	<p>④ サクラソウは、同じ仲間に確実に花粉をわたしてもらえるように</p> <p>要点のまとめ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サクラソウとトラマルハナバチの関係をさがす ・ 大切な文を見つける ・ 短くまとめる 	<p>受粉</p> <p>読み取るう</p> <p>サクラソウとトラマルハナバチがどのような関係なのかを</p> <p>サクラソウとトラマルハナバチ</p> <p>鷺谷 いずみ</p>
--	---	--	--	--

一 サクラソウとトラマルハナバチ 教材分析表

意味 段落	形式 段落	キーワー ド	要点	言語事項 (難語句)	構成
1	①	サクラソウ タネが実らない	どうしてサクラソウの花がさいてもタネが実らないことになってしまったのか。	こんなこと どうしてで しょう(絶滅)	「初め」 問題提起
2	②	受粉 役割 トラウマ ハナバチ	サクラソウの受粉でトラマルハナバチは大切な役割を果たしている。	まず (受粉)	問題説明Ⅰ
	③	トラウマ ハナバチ 受粉の仲 立ち	トラウマハナバチはサクラソウからみつや花粉を集める時に受粉の仲立ちをしている。	こうして (仲立ち)	
2	④	サクラソウ・工夫 開花の時 期・花の形	サクラソウは、同じ仲間に確実に花粉をわたしてもらえるように二つの工夫をしている。	一つは、もう一つは	サクラソウの 受粉とトラマルハナバチとの 関係
	⑤	トラマル ハナバチ	トラマルハナバチは、サクラソウの工夫に合ったくらし方や体のつくりをしている。	そのような その時期	
3	⑥	強い結び つき・築 く・協力 者・長い年	は、長い長い年月をかけて、おたがいに都合のよい強い結びつきを築いてきた。	こうして くのです (利益、築く)	「中2」
	⑦	ひみつ	トラマルハナバチが、いなくなったひみつを、その一年間の生活をもとに考えよう。	実は 次は そのひみつ 考えよう	
3	⑧	一家の歴 史 女王バチ 働きバチ	女王バチがたまごを産み育てるところサクラソウが咲き、働きバチが密や花粉を集め、家族を増やす。	ですから ちようどその ころ	問題説明Ⅱ トラマルハナバチがいなくなった秘密
	⑨	ねずみ 花 子孫を残す	トラマルハナバチは途切れることなくさき続ける植物の花や巣穴を残すねずみがいないと家族を養い子孫を残すことはできない。	このように	
4	⑩	つながり 生き物 守る	おたがいにつながり合って生きている生き物たち全体を守っていかなければならない。	このように つまり ばならない	「終わり」 まとめ 筆者の考え

二 日常の学校生活における言語活動

- ① 物語や詩を読み、感想を交流し合うこと。
- ② 「はじめ、中、終わり、自分の考え」という、文章構成を使って文章を書くこと。
- ③ 筆者の考えに対する自分の意見を持ち、話すこと。